

適塾を生んだ大阪 その医蹟を巡る

竹中 裕昭

【目的】

2011年（平成23年）、第28回日本医学会総会（東日本大震災のため縮小開催）が行われた際、参加者が自由散策のために利用できる「医蹟巡りガイド」がWeb上で配信された。

一方、筆者の知る限り、大阪に関するそのような資料はなく、適塾など歴史教科書に登場するような有名な医蹟ですら、その場所をご存知ない方が多く、まして、それ以外の医蹟に関しては、ほとんどその存在すら知られていない。

そこで今回、大阪の医学史について整理し、興味を持たれる方が手軽に利用できる「大阪医蹟めぐりガイド」を作成することで、大阪の観光や大阪の魅力を紹介する一助となることを、本研究の目的とする。

【内容】

ピックアップした大阪市内の医蹟36箇所のうち、医学的価値が比較的高く、かつ観光スポットともなりうる医蹟を20箇所に絞り込み、モデルコースを作成した。

【結果（今後の考察含む）】

「伝説の時代の医蹟を訪ねる」「赤十字精神の芽生えから名医誕生時代の医蹟を訪ねる」「蘭学ブームから近代医学誕生時代の医蹟を訪ねる」という3つのモデルコースを作成した。コース選定に当たっては、時代背景別になることを意識した。

なお、459年（雄略天皇3年）に来日し、大阪で最初の医療を行ったと思われる高句麗の僧、難波薬師（徳来）については、その活動の詳細がわかっていないため掲載できなかった。また、適塾発祥の地（瓦町適塾）については、1箇所に特定できなかったため掲載できなかった。今後、検証を重ね、将来的には医蹟めぐりガイドに掲載したい。

今回、医蹟選定の妥当性の検証として、2013年度大阪府医師会医学会総会で20箇所の医蹟を報告し、ディスカッションを行った。今後、更に様々な機会を通じて妥当性を高めたいと思っている。

参考・引用文献

- 1) 中野 操：大阪名医伝．思文閣出版，1983.
- 2) 鈴木 昶：日本医家列伝．大修館書店，2013.
- 3) 梅溪 昇：緒方洪庵と適塾．大阪大学出版会，1996.
- 4) 芝 哲夫：適塾の謎．大阪大学出版会，2005.

大阪医蹟めぐりガイド

モデルコース① 伝説の時代の医蹟を訪ねる

A 少彦名神社→B 大国主神社→C 安倍晴明神社→
D 四天王寺（聖徳太子四箇院跡）→E 勝鬘院・愛染堂（聖徳太子施薬院跡）



A 少彦名神社→（徒歩）→地下鉄「淀屋橋」→（御堂筋線）→地下鉄「大国町」→B 大国主神社→（御堂筋線）→地下鉄「天王寺」→（徒歩）→阪堺「天王寺駅前」→（上町線）→「東天下茶屋」→（徒歩）→C 安倍晴明神社→（徒歩）→王子町バス停→（市バス 62 番系統）→天王寺西門前バス停→（徒歩すぐ）→D 四天王寺→（徒歩）→E 愛染堂

* 伝説の時代の医療は、因幡の白兎を助けた大国主命から始まる。大国主命、及び彼を助けた少彦名命を祀る神社は全国にあり、大阪にも存在する。飛鳥時代には、日本最初の病院・社会福祉施設である四箇院（しかいん）が、聖徳太子によって四天王寺に設置された。平安時代になると、すでに漢方薬が導入されていたが、医療や僧侶の祈祷などが効かない場合は陰陽師に頼られていた。代表的陰陽師、安倍晴明は大阪で生まれている。

モデルコース② 赤十字精神の芽生えから名医誕生の時代の医蹟を訪ねる

A 中央公会堂前（合水堂跡）→B 小楠公義戦跡碑→C 太閤下水→D 狸坂大明神（南大江公園内）→E 太平寺・北山不動明王



A 中央公会堂前（合水堂跡） →（徒歩）→京阪「なにわ橋」→京阪中之島線→京阪「天満橋」→（徒歩すぐ）→B 小楠公義戦跡碑→（徒歩）→地下鉄「天満橋」→（谷町線）→地下鉄「谷町四丁目」→C 太閤下水→（徒歩）→D 狸坂大明神→（徒歩）→地下鉄「松屋町」→（長堀鶴見緑地線）→地下鉄「谷町六丁目」（乗り換え）→（谷町線）→地下鉄四天王寺前夕陽ヶ丘」→（徒歩）→E 太平寺

楠木正成（大楠公）の長男、楠木正行（小楠公）は、南北朝の戦いで橋から大川に落ちた敵兵 5 百余人を救出した。この行為はわが国の赤十字精神の化身と称えられる。日本最古の現役下水道である太閤下水は、豊臣時代の画期的衛生施設である。江戸時代になると、いわゆる名医や医塾ができる。華岡家の合水堂は適塾のライバル的存在として有名である。

モデルコース③ 蘭学ブームから近代医学誕生時代の医蹟を訪ねる

A 中天游邸跡→B 伏屋素狄頭彰碑（阿弥陀池和光寺）→C 難波島跡→D 橋本宗吉絲漢堂跡
 E 北御堂→F 除痘館発祥の地→G 除痘館記念資料館→H 適塾→I 大阪府医学校・大阪病院跡（大村益次郎卿殉難報告之碑）→J 浪華仮病院跡（大福寺）



A 中天游邸跡→(徒歩)→市バス「京町堀二丁目」→市バス 55 番系統→市バス「あみだ池」
 →(徒歩すぐ)→B 伏屋素狄頭彰碑（阿弥陀池和光寺）→(徒歩)→地下鉄「西長堀」→
 (長堀鶴見緑地線)→地下鉄「大正」→(徒歩)→C 難波島跡→(徒歩)→地下鉄「大正」
 →(長堀鶴見緑地線)→地下鉄「心齋橋」→(徒歩)→D 橋本宗吉絲漢堂跡→(徒歩)→
 地下鉄「心齋橋」→(御堂筋線)→地下鉄「本町」→(徒歩すぐ)→E 北御堂→(徒歩)
 →F 除痘館発祥の地→(徒歩)→G 除痘館記念資料館→(徒歩)→H 適塾→(徒歩)→市
 バス「淀屋橋」→市バス 62 番系統→市バス「国立病院大阪医療センター」→(徒歩)→I 大
 阪府医学校・大阪病院跡（大村益次郎卿殉難報告之碑）→(徒歩)→市バス「国立病院大
 阪医療センター」→市バス 62 番系統→市バス「上本町四丁目」→(徒歩すぐ)→J 浪華仮
 病院跡（大福寺）

大阪市内医蹟巡り

時代別解説とアクセス

神話の時代

A 大国主神社(浪速区敷津西 1-2)

最寄り駅: 地下鉄御堂筋線・四つ橋線「大国町」



出雲大社に祀られる大国主命は、毛を剥がされた因幡の白兔に、「真水で体を洗い、蒲(がま)の穂をとって敷き散らして、その上を転がって花粉をつければ、皮膚は元のように戻り、必ず癒えるだろう」と教えました。これが日本初の皮膚科治療ではないかとされています。大阪には大国主命を祀る大国主神社があります。

B 少彦名神社(中央区道修町 2-1-8)

最寄り駅: 地下鉄堺筋線・京阪本線「北浜」



少彦名命は、大国主命と協力して病の治療法や鳥獣や昆虫の害をばらう為の禁厭(まじない)を定め、医薬神・農耕神として信仰されています。江戸時代、和漢薬と共に、長崎を通じて輸入した漢方薬を全国に広めた道修町では、少彦名命と中国の神農さんが祀られています。

古代

C 日本初の病院・薬局・社会福祉施設でもあった 四天王寺(天王寺区四天王寺 1-11-18)

最寄り駅: 地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘」



聖徳太子は四天王寺に「四箇院(しかいん)」を設置したと言います。四箇院とは、敬田院、施薬院、療病院、悲田院の4つです。敬田院は寺院そのものであり、施薬院と療病院は日本最初の薬草園及び薬局・病院で、悲田院は病者や身寄りのない高齢者のための日本初の社会福祉施設です。施薬院、療病院、悲田院は少なくとも鎌倉時代には、実際に寺内に存在していたことが知られています。

D 勝鬘院(愛染堂)(天王寺区夕陽ヶ丘町 5-36)

最寄り駅: 地下鉄谷町線「四天王寺夕陽ヶ丘」



大阪の夏祭りのトップを切る愛染祭りや、縁結びの霊木「愛染かつら」があることでも有名な勝鬘院(愛染堂)には、かつて聖徳太子が設置した四箇院のうち施薬院があったとされ、後に聖徳太子が勝鬘経を講じた地だとする伝承があります。

E 安倍晴明神社(阿倍野区阿倍野元町 5-16)

最寄り駅: 阪堺電軌上町線「東天下茶屋」



平安時代になると漢方薬がすでに使われ、薬や民間療法、僧侶の祈祷で病が癒えない場合には陰陽師に頼ったそうです。阿倍野区には平安時代の陰陽師・安倍晴明が生まれたとされる地に安倍晴明神社があります。

中世・織豊時代

F 小楠公義戦之跡碑(中央区天満橋京町 1-1)

最寄り駅: 地下鉄谷町線・京阪本線・京阪中之島線「天満橋」



楠木正行は1347年(正平2年)11月、瓜生野の戦いで、山名時氏、細川頼氏を打ち破り、その際、川に落ち流された500人を越える敵兵を救い、衣服や薬を与え、京へ帰しました。後年、この行為は士道の華、赤十字精神の鑑であるとされました。

G 太閤下水(南大江小学校正門南隣)

(中央区農人橋 1-3-3)

最寄り駅: 地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」



豊臣秀吉は、低湿な大坂の町づくりにあたり、町屋から出る下水を排水するための下水溝を建設したと言われています。大坂城下町は、大坂城に向かう東西道を軸に碁盤の目に区切られ、道路に面した建物の背中どうしの裏口に下水溝が掘られたことから「背割下水」と呼ばれています。近世に造られ、改良されながらも現在まで使われ続けている下水道は全国的に見てもほとんどありません。

江戸時代

H 狸坂大明神(南大江公園) (中央区粉川町 6・

神崎町 1) 最寄り駅: 地下鉄長堀鶴見緑地線「松屋町」



江戸時代になると、多くの名医が登場します。京で日本一とうたわれた曲直瀬(まなせ)正純に学び、粉川町で開業した大坂の名医の草分け、古林見宜(正温)は、魚を食べて腹痛をおこした狸まで治してしまったという伝説があります。この狸が熊野街道の坂口王子跡とされる南大江公園内にある狸坂大明神に祀られている狸かもしれないとのこと。

I 北山不動明王(太平寺)(天王寺区夕陽丘町1-1)

最寄り駅: 地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘」



北山壽安は大坂・道修谷で開業した名医です。中国人の父から最新の製薬法を学び、その方法をオープンにしたので、これを習おうと薬種商が移り住んできたのが、薬の町・道修町の始まりとも言われます。1701年(元禄14年)3月3日、壽安は万民救済の誓願成就を祈念して北山不動明王像の下に生きながら定に入り、同月15日、その鉦の音が途絶えたと伝えられています。

J 絲漢堂(しかんどう)跡 (中央区南船場 3-3-23)

最寄り駅: 地下鉄長堀鶴見緑地線「心斎橋」



18世紀後半の大坂学問界の悩みは、蘭語を読める学者がいなかったことです。そこで抜擢されたのが橋本宗吉です。間重富や小石元俊の援助を受け、江戸に留学した橋本宗吉は、4ヶ月で4万語のオランダ語(現在、中学校・高校で習う英単語数は約3000語)をマスターし、帰阪後、大坂初の蘭学塾である絲漢堂を開き、大坂の町に蘭学ブームを起こしました。ここから、伏屋素狄、中天游らが輩出され、緒方洪庵-福沢諭吉へとその系譜は続きます。まさに適塾のルーツとも言える施設です。

K 大阪初の観臓之地・月正島跡(木津川公園付近)

(浪速区木津川 2-3)

最寄り駅: 南海汐見橋線(高野線)「芦原町」、JR大阪環状線「芦原橋」



大阪初の人体解剖は、1796年(寛政8年)2月18日、大坂城御定番であった保科家の藩医、宮崎或によって行われました。その舞台である合掌洲は旧・月正島であるとされています。この時、三之助という男性の刑屍を解剖し、その成果は「三之助解剖図」として著わされています。

L 世界初の腎臓機能実証実験の地・難波島跡 (大正区三軒家東 2-11)

最寄り駅： 地下鉄長堀鶴見緑地線・JR 大阪環状線 「大正」



明和7年から安永7年にかけて難波島の今木新田が開拓され、その北端には、幕府の木津川口刑場(今木刑場)が設けられました。そこは一面、葎原だったため、葎島と呼ばれていました。1800年(寛政12年)、大矢尚斎、伏屋素狄、各務文献ら絲漢堂の蘭法医による女性の刑死人の解剖が行われました。これが大阪の市井の医師による初めての人体解剖です。この時、伏屋素狄は腎臓に墨汁を注入し、腎臓を手で握り締め、淡い液体を押し出し、「腎臓の機能は濾過と尿の生成である」と結論づけました。これが西洋に先駆けること38年、世界初の腎臓機能の実証実験です。以後、葎島は江戸時代の大坂における人体解剖のメッカとなりました。

M 伏屋素狄顕彰碑(和光寺) (西区北堀江 3-7-27)

最寄り駅： 地下鉄千日前線「西長堀」



伏屋素狄(ふせやそてき)は、堀江の開業医で、前述の今木刑場での

人体解剖に参加した他、種々の動物で解剖や生理学的実験を行い、そこで得た知見などを記載した「和蘭医話」を1805年(文化2年)に刊行しました。しかし、大坂の一町医者であった素狄の功績は長年、顧みられることがありませんでした。ようやく1955年(昭和30年)になって、富田林市の旧家から「和蘭医話」と彼の実験記録数十枚が発見され、日本生理学会、日本医史学会より「日本実験生理学の祖」と称えられ、両学会により、墓碑すら明らかでなかった素狄の顕彰碑が、開業場所近くの和光寺境内に建てられました。

N 緒方洪庵の師匠・中天游邸跡碑(花乃井公園) (西区京町堀 2-11)

最寄り駅： 地下鉄中央線「阿波座」



絲漢堂の蘭学医の一人である中天游は、妻のさだと共に開業しましたが、診察と生活は「コマチ先生」と呼ばれ、評判のよかった妻に任せ、思々齋塾という蘭学塾を開いて、緒方洪庵らを輩出しました。洪庵は、「天游先生と誠軒先生(江戸の坪井信道)の慈恩がなかったら、今の自分はない」と自著に記す程、中天游を慕っていました。

O 大阪の予防接種発祥の地(美々卯道修町店前) (中央区道修町 4-4-6) 最寄り駅： 地下鉄御堂筋線「淀屋橋」



当時、多数の死者を出していた天然痘を予防するため、京都から牛痘苗(ぎゅうとうびょう)を入手し、緒方洪庵が中心となって、古手町(現・道修町)に1849年(嘉永2年)11月7日、除痘館が開設されました。大阪で初めて天然痘に対する予防接種(牛痘種痘)が行われた場所です。美々卯道修町店前に除痘館発祥の地の石碑がありますが、実際の場所はこの碑の西側とされています。

P 除痘館記念資料室(緒方ビル) (中央区今橋 3-2-17 緒方ビル 4F)

最寄り駅： 地下鉄御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」



大阪での牛痘種痘普及の道は険しく、除痘館で種痘を終えた人に、接種後に天然痘を発症することがあれば、医師の首を差し出すと約束したそうです。そのような苦労を重ね、除痘館はやがて西日本の種痘拠点となり、手狭になったために2年後、現在では、除痘館記念資料室が入る緒方ビルがある地に移転しました。

Q 適塾(適々齋塾)蹟 (中央区北浜 3-3-8)

最寄り駅: 京阪本線「淀屋橋」

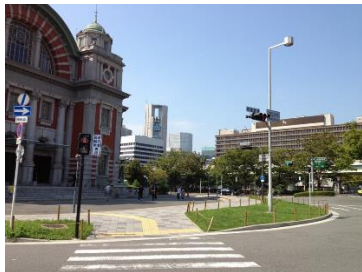


現存するわが国唯一の蘭学塾の遺構です。緒方洪庵の号である「適々齋」が名の由来です。緒方洪庵は医者として病気を防ぐことに尽力する一方で、1838年(天保9年)、適塾(適々齋塾)という蘭学塾を開き、外国の新しい学問の教育を行いました。当初、瓦町に開設された適塾ですが、手狭になったため、1845年(弘化2年)に過書町(現在地)の町家を購入・移転し、やがて大坂を医学の中心地へと押し上げていきます。福沢諭吉、佐野常民、大鳥圭介、橋本左内、大村益次郎、長与専斎、高松凌雲ら、明治になって日本の発展に尽くした多くの人々を輩出しました。適塾は明治新政府の教育制度の整備と共に発展解消し、大阪府医学校、大阪府病院、さらには大阪大学へと発展しました。

R 合水堂跡(大阪市中央公会堂付近)

(北区中之島 1-1-27 付近)

最寄り駅: 京阪中之島線「なにわ橋」



合水堂は1816年(文化13年)、中之島の東端、俗に「山崎の鼻」と呼ば

れた地に創設された大坂で人気No1だった医塾で、適塾のライバル的存在でした。創設者は華岡鹿城という人物で、全身麻酔薬「通仙散」を発明し、世界で初めて全身麻酔による乳がん手術を成功させた華岡青洲の弟にあたります。乳がん手術成功後、紀州にあった医塾「春林軒」の分塾として創設されました。華岡家に入門した門人の約48%が合水堂に入門し、華岡流外科学の普及に大きな役割を担いました。

明治時代

S 大阪(浪華)仮病院跡(大福寺)

(天王寺区上本町 4-1-15)

最寄り駅: 近鉄奈良線「大阪上本町」



明治になり、政府は大阪に本格的な医学専門教育学校と病院建設を計画したものの、財政難で、1869年(明治2年)になって、ようやく政府直轄仮病院を大福寺内に設置しました。院長は緒方洪庵次男の緒方惟準(おがた これよし)、主席教授はオランダ人ボードウィンで、医学教育にも当たりましたが、わずか3か月たらずで鈴木町に移転しました。

T 大阪府医学校跡(国立病院機構大阪医療センター)

(中央区法円坂 2丁目)

最寄り駅: 地下鉄中央線「谷町四丁目」



1869年(明治2年)7月、鈴木町代官屋敷跡に大阪病院が完成し仮病院を移転。同時に医学校(大阪府医学校)が開設され、11月には大阪府医学校病院となりました。京都木屋町の宿で襲われた大村益次郎が八軒屋を経てここに移されましたが、治療の甲斐なく敗血症にて亡くなりました。明治維新の立役者の1人である小松清廉(帯刀)もここで1年余り治療を受け、亡くなっています。

U 大阪府病院跡(西本願寺津村別院・北御堂)

(中央区本町 4丁目 1-3)

最寄り駅: 地下鉄御堂筋線「本町」



1872年(明治5年)、大阪府医学校病院が学制改革に伴って廃止されてしまいます。すると困った府民の中から、豪商、寺院、開業医、俳優、などが出資して大阪府病院を設立してしまいます。この病院には教授局が設けられ、オランダ人医師エルメンスの下、医学講義が行われました。この大阪府病院が大阪公立病院と改称。後に中之島に移転し、大阪大学医学部の直接的ルーツとなります。



